

【感染（発病）時期の判別】



「早期感染」



「梅雨期～の感染」

(2) 「せん孔細菌病の耕種的（総合的な）防除」

1. 秋季ボルドー散布

越冬菌を減らすための防除。この防除が基本。

2. 被害部位の除去

開花期前後から5月にかけて新しい春型枝病斑（スプリングキャンカー）が形成される。春型枝病斑が一次伝染源になるのでせん除を徹底する。

多発園地では、夏型枝病斑の除去も実施する。

3. 果実の袋かけ

果実に袋をかけることによって果実への感染を防止する。

4. 風あたりを少なくする

風雨を強く受けるところで発病が多くなるため、防風林などで防風対策を講じる。

生育期

◎春型枝病斑（越冬伝染源）から葉・果実・枝に感染

●春型枝病斑や発病部位の摘除

●薬剤散布

開花前：銅剤（ボルドー液など）

生育期：抗生物質製剤（アグレプト、アグリマイシンなど）を中心とした殺菌剤

落葉期

◎落葉痕や皮目からの感染

(落葉痕からは落葉後1日程度は感染の可能性あり) 自然落葉の場合

- 銅剤による予防散布
- 秋季せん定を実施して薬剤のとおりを良くする

(4) 「ボルドー液による汚れ(飛散)が気になる場合は」

ボルドー液が効果を発揮するために、いつ散布すれば良いか?

- ①この時期のせん孔細菌は、水(雨)がなければ移動できません。
- ②せん孔細菌は、主に落葉痕と皮目から侵入します。落葉後、落葉痕が塞がるまでには、自然落葉で1日(強制落葉の場合は数日)かかります。
- ③落葉前にボルドー散布することで、降雨時には薬液が落葉痕をふさぐ作用があります。

- ・代替農薬 「コサイド3000」 使用倍率 2,000倍(水100ℓに50g)
「ムッシュボルドーDF」の500倍(水100ℓに200g)でもよい。

散布後の汚れ比較

H27:「コサイド3000」散布

「ICボルドー412」散布



- ・コサイド3000はボルドー液と比べて残効性が劣ると予想される。10日以内。
- ・コサイド3000は、クレフノンを加用しないで散布した際、多少の落葉を生じる場合がある。

薬剤の単価比較

薬剤名	使用倍率(100ℓ当)	規格	散布100ℓ 単価
icボルドー412	30倍(3.3kg)	5k	約900円
コサイド3000	2000倍(50g)	500g	約180円

固着性展着剤

薬剤名	使用倍率(100ℓ当)	規格	散布100ℓ 単価
KKステッカー	3000倍(33ml)	500ml	約80円
アピオンE	1000倍(100ml)	1ℓ	約200円